

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・来客数が大幅に増加している。前年度と比較しても上昇している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・夏期休暇に入ったが、平成30年7月豪雨・台風接近などの影響で客の出足が悪い。
(九州)		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・6月からフリーペーパーに掲載され、それを見た客が多く来店した。インターネットからの問合せもあり、それ以来景気が良くなった。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食品は若干上向きに動いている。高値の野菜、果物類については価格が上昇したほか、鮮魚、肉、総菜も上向きになっている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・客数は相変わらず減少傾向だが購入点数が若干増えている。丑の日のウナギは単価が高すぎて単品としては減少したが、牛肉やウナギを使った弁当等全体的には購買意欲はあったようだ。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月は気温上昇が続き、飲料水や特にアイスクリームの売上が大きく上昇している。全体の売上自体も前月よりかなり良くなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月は猛暑のためエアコンディショナーが売れている。エアコンディショナーは工事が必要となるため、販売しても上限があるため景気が回復しているわけではない。
		都市型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・例年の団体の予約は入っているが、それ以上にホテル客室定員数が増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・催物が多い当市において、今月は猛暑、大雨等極端な天候が続いたためタクシー利用が増加した。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・訪日外国人関連の引き合いが多い。公募も多く出ている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・4月の改定で介護報酬が若干上がったことにより、第1四半期の客単価も前年度と比較すると増加で推移しており、今後しばらくはこの状態が継続する。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・前月に比べ10%増加の受注があり、今年に入って右肩上がり傾向が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・飲食店は季節に対し、対応をしなくても良い部分もあるが、小売店では景気の良しあしが感じられないようになっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑のため日中の来店客が激減した。客は夕方以降に来店し短時間で必要な物だけ購入している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・丑の日はウナギの需要はあったが、それでも2割ほど取扱量が落ちた。1匹の単価が高くなった分、販売数が減少した。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・特段の変化はない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・月ごとの評価では、6月は売り尽くしセールの前倒しや土曜日1日増しのセールの要因で前年実績を上回っているテナントは多いが、7月に入り台風や大雨、酷暑の影響で来店客数が減少し、厳しい状況が続いている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・大河ドラマ効果や観光船での国内外の観光客で店内にはぎわった。一方お中元ギフトの最盛期であり、ダイレクトメールやクレジットの催事、割引セール等地元の客への来店促進策を実施したが、猛暑で来店客数が減少した上、土日祝日の来店客数も減少、夕方の客の引きが早かった。当月のお中元ギフトは飲料水、アイスクリーム、精肉が好調で、客数減少を客単価上昇で補った。化粧品、シーズン雑貨は好調で、紳士婦人衣料品や雑貨、子供服及びリビング用品の自家需要商品は依然堅調である一方、お中元ギフトの商品単価減少や届け先絞り込みは続いている。
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨や猛暑等の影響もあり食料品や生活必需品を除き、消費者の購買意欲は若干控えられる傾向にある。
	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・けん引効果も狙って夏の売出しを実施しているが、猛暑日が続く、来店客が減少している。	

スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数は前年並みまで上がっており、3か月前の来店客数も上昇している。生鮮食品は、今月は土用の丑の日があったが、前年と比較すると国内産ウナギの売価高騰で前年の90%しか売れず、鮮魚は苦戦している。客も中国産と比較し買い控えをしており、年々催事が懸念される状況になっている。全般的には、前年より回復している状況で今後良くなっていく。
スーパー（店長）	来客数の動き	・今月は大雨や猛暑が来店頻度に大きく影響を与えている。特に朝、夕方に来店が集中しており、昼間の来店客数が大きく落ちている。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・本来ならば、ボーナス商戦で景気が上向くところであるが、猛暑と災害の影響により来客数が前年を下回っている。一方、客単価と購入点数は前年比を上回っており、客数の減少を一部補っている。
スーパー（統括者）	来客数の動き	・客の給与等の手取り額が増加していないなかで、食品価格の内容量減少も含む一部値上げもあり、客はより安価な商品を置いている店で購入する傾向が強くなっている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・7月初旬の地域振興券発売後は買物客がみられたが、その後閑散として来客がない。続く猛暑の影響もあり、来店客はほとんどない状態である。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前と比較して好材料は特にならないが、大雨等の天候の不順により、前年と比較して営業時間が短くなり、流通業や小売業の客の出足に響いている。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・月の上旬は大雨の影響があった。梅雨明け後は大物商材の動きが活発になってきているが、景気が上向きではない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・7月は低迷する新車販売促進のため大規模な催しを開催した。電波、広告、新聞等の宣伝効果と各種優遇施策により目標を上回る新車受注台数を確保できた。今後も費用対効果を検討しながら、来店客数増加が見込まれる催しを展開し、売上を伸ばしていく。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・都市部でのキャンペーンでは、前半は良かったが、後半は落ち込んでいる。店舗での販売がここ2～3年良くない。ボーナスの影響も余りなかった。
その他専門店 [コーヒー豆]（経営者）	お客様の様子	・客は、猛暑のために日中出歩くことを避けるので、来店客数が減っている状態にある。したがって、前年と比較すると来店客数が若干減少している。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、高値にて高止まりしている。客の燃料油の購入方法としては、定量・定額購入者が相変わらず多く、販売数量は前年並みに推移している。今月はボーナス支給が多い月のため、カーケア商品の販売も順調であった。
都市型ホテル（販売担当）	お客様の様子	・会社の周年記念パーティーなどが増加しているが、変化がない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・韓国方面の旅行は回復基調にあるが、アジア方面が低調である。国内もテーマパークを始め東京方面は若干回復の兆しが見えているが、平成30年7月豪雨の影響も出ている。
タクシー運転手	お客様の様子	・夜のタクシー利用は良いが、昼の利用はめっきり減少している。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約は例年よりも増加で推移しているが、来場者数実績は天候による影響を大きく受けた。海外からの来場者も増加傾向がみられないまま推移している。
美容室（経営者）	単価の動き	・単価を下げて営業しているため、とても大変である。
音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・転勤が夏の企業もあるので、客の動きが見えない。
設計事務所（所長）	単価の動き	・人件費や材料単価が上がっているが、消費者は安価時代の感覚のままなので、対価が上がらない。
設計事務所（代表表）	来客数の動き	・来客数が変わらない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・梅雨明けからの猛暑で客の動きも鈍く、来店客数が減少している。
商店街（代表者）	販売量の動き	・梅雨が早く明けたが、一気に暑くなり、人の動きが極端に悪くなった。物の動きが大変悪くなっている。
商店街（代表者）	お客様の様子	・連日の異常な暑さで、日中の人通りはまばらで、午前中に買物を済ませ商店街を回遊せず帰宅する客が多い。

	一般小売店 〔茶〕（販売・ 事務）	販売量の動き	・今月は避難指示が出る大雨に始まり、台風で終わった。売上は伸びず、前年と比較すると20%減少している。
	百貨店（業務担 当）	お客様の様子	・猛暑日が続く、外出を控える客が多く、来店客数が減少している。また、平成30年7月豪雨の報道の影響で、外出を中止し買物や外食を控えている客もいる。
	スーパー（店 長）	単価の動き	・お中元シーズンだが例年に比べ、点数、単価が下がっている。
	衣料品専門店 （店長）	来客数の動き	・暑さの影響で、客足が鈍い。
	衣料品専門店 （店員）	販売量の動き	・売り尽くしセールでもまとめ買いはほとんどなく、1点ずつしか売れない。
	衣料品専門店 （総務担当）	来客数の動き	・衣料品消費の停滞に加え、当地では県庁の移転の結果、商店街の集客力がますます弱まっている。その結果、来客数が減少し、売上に響いているのが現状である。
	家電量販店（総 務担当）	販売量の動き	・梅雨明けし、それなりの暑さになったが、季節商材の動きが鈍い。自然条件の追い風をつかみきれていない。
	その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	販売量の動き	・客の購入数量、単価が減少している。贈答先の数量も減少している。節約志向のため、売上が前年並みである目標値に届かない。
	その他小売の動 向を把握できる 者〔ショッピング センター〕 （統括者）	来客数の動き	・天候不良の影響で来場客数が前年割れである。特に6月下旬～7月上旬は、台風と大雨で大幅に落ち込んだ。
	高級レストラン （経営者）	来客数の動き	・猛暑により外出が減っている。食事が進まないように、注文も少なくなっているのが現状である。
	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・前年よりも来客数が減少し、予約状況も少ない。
	観光旅館組合 （職員）	来客数の動き	・猛暑と災害の影響が大きい。
	都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響もあり、また今後予定される復興支援等で更に下降する。
	都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・宿泊稼働率が下がっており、レストランやバーの利用人数も減少傾向にある。
	旅行代理店（企 画）	販売量の動き	・先行受注の動きが対前年を下回っている。
	タクシー運転手	それ以外	・前月から今月にかけて、気候変動と災害の影響がかなり出ている。
	通信会社（営業 担当）	お客様の様子	・契約件数が若干減っている。同業他社の強引な営業があり、商材への悪いイメージが植え付けられている。
	通信会社（企画 担当）	販売量の動き	・季節要因による販売上積みの一服は想定していたが、販売量が減少した。
	美容室（経営 者）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、売上は若干下降気味である。暑さも原因の1つではあるが、景気回復ができていない。対策に期待したい。
	美容室（店長）	お客様の様子	・異常な暑さで日中の外出を控えている人が多く、売上に響いている。
	住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・7月の猛暑や台風、大雨の影響で住宅展示場への来場が減少し、7月の販売は伸び悩んでいる。
x	商店街（代表 者）	来客数の動き	・今月の天候は危険な暑さである。商店街は、空調設備がないため店頭の商品を出しておくこと暑さと電気の熱で商品が痛むため、商品を表に出せない。客が少ない上、商品を店頭に出していないため、客は素通りし、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで購入しているのが現状である。
x	商店街（代表 者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨の心理的影響と猛暑の影響で来店客数が極端に減っている。不要不急の外出は控えるメッセージが出ている。
x	商店街（代表 者）	来客数の動き	・前例がないほどの悪い状況である。猛暑のためか商店街に人がいない。7月は売上が冷え込む時期だが、更に拍車がかかっている。
x	一般小売店〔青 果〕（店長）	それ以外	・全国的に大雨等の影響で産地がかなり被害を受け、暑さのため需要が減少する分、きゅうり、キャベツ関係の相場の高値が続く、かなり厳しい状況である。

	x	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・7月は大雨、台風等天候要因で客足が止まった。全体的に景気は下振れしている。婦人服、紳士服の衣料品が極めて悪く、7月のクリアランスセールがあるなか大きく減少している。訪日外国人、高額品は好調である。
	x	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全店前年を下回っており、全体的に水準が良くない。ギフトは一部の店舗で若干好調になっている。
	x	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・梅雨の期間、水害が発生する状況があったので、その影響で客足が遠のいていたが、梅雨が早く明け晴天が続いているにもかかわらず、更に売上が悪くなった。例年7～8月は飲料水の需要がピークになるが、全体的な売上減少は、気候に原因があるのではなく、他に原因がある。
	x	その他専門店 〔書籍〕（副店長）	販売量の動き	・前半の悪天候に加え、6～8月の期間で使用可能であった県教職員向け金券の使用開始が7月後半にずれ込み、期待していたにも関わらず売上状況が悪くなった。
	x	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月の景気も上向きになることなく、厳しい時期が続いている。
	x	スナック（経営者）	来客数の動き	・月初めの台風、大雨からの酷暑と気候悪化の影響で街に人が出ていない。この10年で最低の売上である。
	x	観光ホテル（総務）	販売量の動き	・熊本地震の復興需要の力強さが薄れている。
企業 動向 関連		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・九州は冬春作が終わり、夏秋作となっている。大雨の影響で全体的に単価は高騰している。特に葉物野菜の単価が高い。
(九州)		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・特別注文家具業界の話では、飲食向け家具の需要は下降気味だが、オフィス業界でのインテリア家具の需要が増加しているため、売上としては横ばいの企業が多い。ホテル向け家具を供給している一部の特別注文家具メーカーは、オフィス向け家具の需要も加わり旺盛なため、当社は売上、利益共に前年比で8%程度伸びている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・取引先から、製品の受注において単品部分だけではなく、一連の業務を全て引き受ける条件での要請が強くなっている。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設業では、災害関係も含め工事の発注がかなり増加している。入札なので、受注はできていないが、工事の量ではかなり出ているので、3か月前と比較し景気が良くなっている。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・民間工事、公共工事共に発注は多くなり受注機会が増えた。このまま現在の状況を維持したいが、平準化の発注になっていないので第4四半期が心配である。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・平成30年7月豪雨により、本州からの入庫が一部ストップし九州から本州への出荷もストップしたため取扱いは減少した。しかし、中旬からの異常気象により飲料水関係の取扱いは活発となり多少は持ち直した。また、商品は高価格と低価格の2極化となっているが、高価格の取扱いが順調である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先では、一般消費にかかわる小売、サービス業の売上は、猛暑の影響もあり、夏の関連商材は上がっているが、慢性的に人手不足が現状で景気は変わらない。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・梅雨明け後は、ビールの消費に合わせた焼き鳥等スーパーマーケットや居酒屋向けの消費に期待していたが、猛暑のために消費は期待していた結果になっていない。出荷加工メーカー向けの原料肉の納品もとり肉に関しては、増産傾向で荷余り感が強く、引き合いも余り良くない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節的に生産、販売共に端境期であるが、比較的順調に販売が推移している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今までの状況に変化が出ている。需要者も状況を押し量っている状態で、動きが取れず様子を見ている状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・主要取引先からの受注状況にさほど変化がない。
		その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	受注価格や販売価格の動き	・取引量としては増加しているが仕入価格が高騰し、ほとんど利幅がなくなっている。売上金額だけが上昇していて利益が出ていない。

	輸送業（従業員）	取引先の様子	・健康食品の受注が年初めから価格、量共に好調である。一方で、今月から国内向けが減少気味で、発注数量の下方修正が発生している。生産が追い付かず納期待ちが発生していたこともあり生産数は変わらず、前年比130%程度で推移している。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・人手不足や燃料費高騰を要因とする運送会社からの値上げが頻発している。荷主に対する価格転嫁交渉が難航しており、平成30年7月豪雨の影響で広島以北の物流に困窮するというダブルパンチがきている。JR山陽線の復旧が11月頃まで掛かる見通しであり、配送料も通常よりかなり高騰しているため、更に利益を圧迫している状況である。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・このところの酷暑や豪雨の影響はあるものの、百貨店の売上や家電販売は基調として増加しており、コンビニエンスストア等の売上も増加している。一方、住宅関連事業は高水準ながらやや頭打ち傾向にある。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先の資金需要や倒産状況に大きな変化は見られない。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・変わらない。製造業を中心に需要は高水準である。人材不足により受注は控える動きがある。一方、高需要に応えるべく設備投資等もみられる。	
	金融業（調査担当）	それ以外	・融資の問合せ、案件自体は大きな変動がなく堅調に推移している。しかしながら、残高伸び率は増加しているものの、特に中小企業において低位であり、競争激化に伴い、利回りが低下していることが挙げられる。結果、取引先の資金需要は引き続き一定の水準であるが、3か月前と比べて大きな変化はない。	
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・異業種交流会において、特に活発な動きは見られなかった。	
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・ハイボール需要が増加しており、ウイスキーが不足気味である。併せて炭酸の需要が伸びており前年比105%である。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業務状況を聞くと、大きな変化があると答える会社がほとんどない。	
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・2019年3月期の決算数字では、増収増益企業が多く、決算特別手当等を従業員へ還元する企業もみられる。ボーナスが増加している企業も多かった。景気自体は上向きのように感じられる。	
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・仕事量が少ない。余りの暑さに設備の増加や故障が絶えない。水害のために運送、配達が進んでいない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・現在の状況は、産地全体大変悪い。平成30年7月豪雨や猛暑続きが原因で消費者の受注関係もほとんど動きがなく、僅かに輸出商品が動いている状態である。来期の業績も先行き悪く、流通関係もほとんど動いていない。	
	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響で、特に中国地区の土木関係の案件は停止が掛かっている状況である。	
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から受託し業務を行う調査会社等のコンサルタントは、入札で仕事を受注する際、かなりのダンピングを行って入札に応じている。落札業者は、予定価格の40%程度で受注する場合があり、経費等を除くと利益は残らない状況にある。他の会社も50~60%で入札に応じており、このため景気が悪くなっている。	
	×	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・天候の影響も若干あるが、当県の場合は、ほぼ復興関係の仕事が終わりつつあり、どこも厳しい状況になってきている。復興景気といわれる状況はなくなっている。
雇用関連	*	*	*	
(九州)	-	-	-	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・労働者派遣法の関係で、派遣先や稼働者それぞれに動きはあるものの、景気に直接関係するような動きにはつながりにくい状況である。新年度の不補充案件も登録が少なく、採用までに時間が掛かる傾向が発生している。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数の前年対比では微増である。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・ふだんは大量に購入しない飲料水関係をまとめて購入するなど、猛暑の影響で飲料水関係の需要が高かった。また、タクシーの利用や暑さ対策の消費関連が大きく伸びている。	

	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・建設・防熱関係の業務を請け負う企業からの話では、県内基幹産業となる造船業について、大型客船引渡し後は通常ベースの業務に戻っただけではなく、更に3割程度の業績が落ち込んだ状態が継続しており、不安の声を聞いた。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・熊本地震復興に伴う建設業や飲食・宿泊業、卸売小売業からの求人は一段落し、現在当所の求人が多いのは、看護師・介護士等を中心とした医療福祉業と派遣・請負業である。ただし、いずれも夜勤等の労働条件や雇用不安定のために求職者からの応募が少なく、募集期限切れの更新を繰り返している。
	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・引き続き求人数の増加が見られ、管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	学校〔大学〕 （就職支援業務）	求人数の動き	・2019年卒業採用において、企業の採用意欲は高く、内定者獲得への動きが早期化、活発化している。求人票の受案件数は、前年度の同時期と比較し若干減少しているが、来訪企業のヒアリングでは、内定者確保が困難である。
	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・前月までとは違って、受案件数が減少しており、派遣登録に来社する求職者数も減少している。新聞の求人欄は落ち着いてきている。
	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・人材紹介・人材派遣の求人とも、例年より減少している。
	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・特に建設関連では仕事があるにもかかわらず、受注したものの、人手不足で仕事が回らなくなっている。協力業者も同様に人手不足で、仕事の発注をするのが難しい状態になっている。
	×	-	-